

令和7年12月7日(日)町中央公民館において、大崎町人権フェスタ2025が開催されました。開会行事の中では、町内小学5・6年生から募集した人権作文と、中学生から募集した人権標語の最優秀作品について表彰がおこなわれました。人権作文については、児童による朗読がおこなわれ、大勢の観客の前で、自分の意見を堂々と発表する姿に、会場からは大きな拍手が送られました。

開会行事後は、「ワクワク生きよう！人生は冒険だ。」という演題で、走る冒険家岩元みさ様による講演がおこなわれました。イランシルクロードウルトラマラソン等の海外の過酷な環境下でおこなわれるレースへの出場、北海道から鹿児島までを走破した日本縦断時の体験談等をお話していただき、受講者から「人生は、何度でも、いつからでも、やり直せるし、チャレンジも大切なことだと思いました。」「人とつながることと自分の成長や思いやりの心がより大きくなれそうです。」などの感想をいただきました。本年6月には、南米アマゾンジャングルマラソン230kmに挑戦するとのこと。是非、成功させてまた多くの人に勇気を与えていただきたいと思います。

人権フェスタ2025

人生何が起きるかわからない でもきっと、だからこそいいんだ。

人権作文

最優秀賞
(二点)

みんなが笑顔で
過ごせるために

大崎小学校 五年

外西 晃大

「お前、沖永良部に帰れよ。」

友達の顔は笑っている。ぼくも、「いつものじょう談か。」と笑ってしまった。でも、その言葉が胸にささったまま消えなかった。心がざわざわして、泣きたい気持ちになった。

ぼくは、両親の転きんで大崎町から沖永良部に引越し、三年間過ごした。きれいな海に囲まれ、たくさんの仲間がいる多くの大切な場所だ。そんな大切な場所をきずつけられたように感じた。

家に帰って、そのことを家族に話した。

「沖永良部を馬鹿にされた気分になる。」

兄弟が口をそろえておこっていた。ぼくと同じ気持ちになってくれたことが、ぼくの気持ちを軽くしてくれた。その横から母が、

「その友達は、言葉の使い方

を知らなかったのかもね。」
そして、ぼくを見つめながらこう続けた。

「こう大も気を付けないと。最近、言葉がらん暴だよ。」

ぼくは、どきっとした。つい先日、兄のことを「お前」とよんで母に注意されたばかりだったからだ。ゲームで負けてくやしくて、けんかになり、つい出た言葉だった。「あ、友達と一緒にだ。」ぼくのことをき

ずつけようとしているのではないと分かっていたし、思いつきの言葉で深い意味はないだろう。しかし、言葉の意味を決めるのは言われた人なのだ。友達にそのつもりはなくても、ぼくはきずついた。そして、以前、道徳の時間に先生が言っていた言葉を思い出した。

「友達を大切にするということは、その人の背景も全部大事にすることですよ。」
出身地や家族、思い出などすべてをそん重することが大切なのだ。

兄弟だと相手が大切にしていて、いるものはすぐに分かるし、感じ取れる。ごめんと言えばすぐにゆるしてくれる。しかし、社会の中ではそう簡単で

はないと思う。なぜなら、その人が大切にしていることがすぐに分からないからだ。心で思うことや考えていることは目に見えない。一緒に過ごす時間がふえるほど、「もしかしら、今こんな風に考えているかも。」と想像して、相手のことを大切に考えられるようになるのではないだろうか。

ぼくは、人権を守ることは、「みんなが笑顔でいられること」だと考える。そのために、まずは相手のことをよく知ることが大切だ。だから、ぼくも友達にしっかりと伝えたい。「そんなことを言われたらきずつくから言わないで。」
そうすれば、相手もぼくのことを少しでも知ってくれる。相手のことを知ること、相手の気持ちや立場を考え、温かい言葉を伝えることができる。ぼくも思いやりの心をもつて、言葉を大切に使えるような、そんな人になりたい。家族や友達、みんなが笑顔で過ごせるように。

